

我國現下の國情に鑑みれば、内に在りては土地狭小にして天然の資源に乏しく、而も人口は急激なる増加を認め、就業の機會は次第に失はれ、國民生活の窮迫著しく、ために各種の社會問題、經濟問題を發生し、外に在りては激甚なる國際競争の結果、我國にとりて好望なる商品の市場並に移民の門戸は多く閉ぢられんとし、内外齟齬非常に難局に直面して居る。斯の如き艱難なる時局に處りて克く國力の維持増進を圖らんと欲せば、當に内外産業の現勢及び將來の發展動向を見透して其間に必要なる産業別従業員の質量と稼測し、我が國情並に國民性に立脚したる綜合的産業經濟國策の大本を確立し、之に對應して人的資源を計畫的に開發し以て物的資源の使を補充し、有用なる人

材を適材適所に活躍せしむべきである、就中、實業教育は國家産業に従事し、之を運轉驅使する人的要素を養成する點に於て眞に國力増進の基本的原動力と言ふべく、現下國運の積極的打開に當りて斯教育振興の意義は益々切實ならんとして居る。顧みれば實際教育が過去に於て産業經濟に寄與したる業績は決して鮮少なりと雖、乍併、時代の進歩、産業經濟の發達は時々刻々止休することなく、之に伴つて産業社會の要求も亦絶えず變化を示しつつ、ある、實業教育が常に新たなる産業經濟の發展段階に應じて有效適切なる教育的效果を期する以上、右の如き現實社會の進歩變遷に對して、最も敏感に適應せねばならぬことは蓋し當然のことである。今日、各方面